

2023年度 第1回 浜松市上下水道事業経営アドバイザー会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和5年7月21日（金）午前9時30分～午前11時30分
- 2 開催場所 上下水道部住吉庁舎第1・2会議室
- 3 出席状況 委員 土居 英二（静岡大学 名誉教授）
田中 範雄（公認会計士・税理士）
村松 奈緒美（弁護士）
前嶋 文明（浜松商工会議所工業部会長）
山下 純乃（浜松ホテル旅館協同組合女性部長）
松本 久和（浜松市自治会連合会環境部会委員）
佐々木 数馬（旧民営簡易水道管理者）
野中 正子（浜松市消費者団体連絡会会長）
事務局 浜松市上下水道部上下水道総務課
※土居委員はZoomによる参加
- 4 傍聴者 0人（一般：0人、記者：0人）
- 5 議事内容 （1）挨拶（浜松市水道事業及び下水道事業管理者）
（2）委員紹介等
（3）当局からの説明
① 水道料金の見直し検討の背景
② 料金水準の現状と課題
③ 料金体系の現状と課題
（4）次回以降について
- 6 会議録作成者 上下水道総務課課長補佐 大橋
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音有

8 会議記録

開 会

(3) 当局からの説明

①水道料金見直し検討の背景

事務局…… 資料「水道料金の見直し検討」に基づき説明
(上下水道総務課 中山専門監)

以下、質疑応答

田中委員…… 13ページの表の中に「薬剤費」は入らないのか。

事務局…… 「その他」に含まれている。

田中委員…… 「その他」が2015年に約5億だったものが2023年に9億まで増えているのは、薬剤費の増加が原因か。
また委託料も6億から12億に増えている。増えた要因は。

事務局…… 委託料については、官民連携ということで大原浄水場の維持管理など民間事業者への委託は増えている。一方、人件費は減少傾向にある。2023年度の単年度でいうと情報システムのクラウド化など臨時的に増えている委託料もある。

田中委員…… 「薬剤費」については。

事務局…… 確認して回答する。

村松委員…… 4ページの「有収水量」は、料金として徴収される水のことだと思うが、徴収されない水とは具体的にどういったものがあるのか。

事務局…… 徴収されない水としては、具体的には主に漏水になる。

村松委員…… 資料A3横の「経営比較分析表」⑧有収率の類似団体平均値と比べて、浜松市の有収率が低いということは漏水が多いということか。

事務局…… 政令市の平均有収率94.13%に比べると低く、全国平均の90.12%と比べると高いということになる。

村松委員…… 平均より漏水が多いということか。

事務局…… 「経営比較分析表」⑧有収率、一番右下の平均94.13は政令市の平均値。右上の90.12が全国平均ということなので全国平均よりは高いということ。

村松委員…… 類似団体とは。

事務局…… 政令市と東京都。

村松委員…… 分かりました。

田中委員…… 漏水が多いのは管路が長いことが原因か。

事務局…… 「経営比較分析表」右側分析欄の8番に記載がありますが、有収率は上昇傾向にはあるが、類似団体平均より低いので、引き続き漏水調査や老朽管路の更新を実施し、有収率の向上に努める必要があると考えている。

前嶋委員…… 漏れている水というのは、浄水場から使用者のところへ行く途中の配水管で漏れているということか。その漏水を減らすためにメンテナンスしたりするのをアセットで計画しているということか。

事務局…… 漏水調査や老朽管の更新をアセット計画の中で実施しているということ。

前嶋委員…… 5ページを見ると管路経年劣化率が年々増えている。経年劣化する管を50年計画で定期的に長寿命化の方法でメンテナンスする計画なのに、劣化率が上昇しているということは、やりきれてなくて、結果的には50年後に劣化した管が増えるということか。

事務局…… 管の経年化率は、法定耐用年数を越えた管の割合を示している。アセット計画は法定耐用年数より長い実耐用年数を用いている。管の経年化率については、上昇傾向は続くと考えている。

前嶋委員…… 法定耐用年数を超過しても、使用可能な場合は引き続き使用する。法定耐用年数を超過している管が増えても実耐用年数をおさえているから大丈夫ですよ。という理解でいいか。

事務局…… そのとおりです。

前嶋委員…… 分かりました。

事務局…… 補足説明です。本市で最優先に取り組んでいるのが、基幹管路といまして口径の大きい管、この耐震化を最優先でやっています。口径が大きい管は、口径の小さい管に比べて工事単価が高いので管の更新率が落ちる傾向にある。2028年度までに基幹管路の耐震化を終わらせる予定でいるので、それ以降は今まで基幹管路に投じた費用をすべて、老朽化の更新にあてていくので更新率も上がっていくのではないかと思っている。

前嶋委員…… 耐震化事業予算が2029年までなので、耐震化事業を優先していると思っていた。理解しました。

松本委員…… 宅内の漏水と配水管での漏水の比率は。

事務局…… 通常、宅内漏水の場合は検針時にある程度発見することができるが、空き家などの場合、発見しにくいケースもある。配水管での漏水は、道路上で漏水が確認できるケースが多いので、比率からいくと宅内の方が多くなるかもしれない。

松本委員…… 了解しました。ありがとうございます。

土居委員…… 2つあります。
1つは、14ページの当年度純利益のデータですが、2015年から2017年までは年間10億の純利益の決算だが、それが6億、4億、2億と最近どんどん減ってきている。
決算は未確定ですが、2022年、2023年の見通しとといいますか、当初予算は赤字ということですが、実際の決算見通しというのはどうか。
もう1つは13ページの、営業費用の委託料が、直近3年で年間1億以上の増加傾向にある。クラウドの情報管理システムへの移行ということがあると思いますが、直近年間1億ずつシステム代がかかっている。今後もかかる見通しか。

動力費は電気代の高騰で上がっているが、動力費以上にこの委託料がすごく高くなっているのが気になる。年間1億ずつ直近3年増えている原因を教えてください。

事務局……

1つ目の当年度純利益について2022年度の見通しについてですが、決算公表前でははっきりとした回答は控えさせていただきたいと思います。

次回開催時には、明示したうえで、それを踏まえたシミュレーションをしていきたいと思っております。

傾向としては、減り続けている状況であり、この傾向は2022年度も続くというぐらいの理解をいただければと思っております。

2つ目の委託料につきましては、クラウドの情報管理システムへの移行の話がありましたが、それぞれの年度で増える要素があり、例えば、水道料金の徴収業務の委託については、契約期間の長短の影響で一時的に高止まりしているようなものもある。経常的な要素も臨時的な要素も半々ぐらいが要因となっている。

土居委員……

ありがとうございました。

野中委員……

業務委託が増えているが、業務量は増えているのか。

委託料が増えた理由と人件費が減った因果関係について教えてください。

また、赤字の原因として電気料金の増を上げていましたが、他の部分で、委託先を含めて業務改善すべきことがないのか。

耐震化事業については、2028年で終わるということですが、激甚災害も増えているので必要なことだと思いますので、完璧にやって欲しいなと思います。

事務局……

水道事業については、官民連携の中で委託を含めてしっかり対応してきた結果。無理に職員を削っていることはない。

野中委員……

業務量は増えているのか。

事務局……

新たに業務を委託することもあるので、業務量は増えている。

野中委員……

業務量が増えて、今まで内部でやっていたものが新たに委託することになると支出が増えるということになるか。

事務局……

新たに業務委託をするということは、それに伴って支出も当然増えるが、その部分の人件費は減ることになる。

土居委員……

7ページの人件費の件ですが、政令市の職員数の比較をしますと、政令市平均で616人もいるのに、どうして浜松市は197人という1番少ない人数になっているかという点について教えていただきたいのが1つ。

それからもう1つは、先ほどの経費と関連しますが、2006年には、職員数255人だったのが、直近では197人で50人ほど減っている。人件費の効率化はいいが、水道のシステム全体を支えているのは、設備もありますが、同時にやっぱり人だと思います。

- その人にとって、働きやすい職場なのかどうかということも、大事な点だと思います。
- みんなが残業しないといけなかったり、過労死時間を超えたりしているようなことで人件費削減のしわ寄せで働きにくい職場になることは、私どもも本望ではありませんので、職場環境や残業時間がどのような状況か教えていただければと思います。
- 事務局…… まず、職員数の少なさについては、先ほども申し上げたとおり民間の力を多く使っているというのが一番大きいかと思います。
- 下水道の例で申し訳ありませんが、平成 28 年に静岡県から西遠流域下水道の移管を受けるにあたり、職員を増やす代わりに民間のコンセッションを導入するという対応をさせていただきました。
- 水道事業も同様に包括民間委託などをうまく使うことで結果として、職員が少ない中で効率的な対応をしていると認識をしているところです。
- あと、職員が働きやすい環境になっているかという点ですが、上下水道部全体として残業時間はそれほど多くありません。職員組合との関係もありますので働きにくい環境にはなってない。むしろ働きやすい環境だと思っております。
- 佐々木委員…… 中国の下水道において最終処理段階で排出される「リン」を野菜の肥料などに利用しているという話を聞いた。中国の「リン」が輸出規制になって、日本に入らなくなったことで、肥料が高くなっている。上下水道でも同じようなことができるのか。売却すれば収入につながると思うが。
- 事務局…… 水道の場合は、リンのような栄養価がないので肥料にはならない。園芸土として売却しているケースはある。
- 佐々木委員…… 分かりました。もう 1 点、業務委託の種類によってどのように金額の違いがあるのか。
- 事務局…… 手持ちがなく即答が難しいので、委託料については、次回の時まで整理して、必要であれば事前に資料を配布させていただくという形で対応させていただきたい。
- 前嶋委員…… 人件費が減って、委託料が増えた結果として総費用が減るのか減らないのかを示して欲しい。結果的に総費用が減っているなら全然問題ないので、次回の時に説明してほしい。
- 事務局…… 承知しました。
- 前嶋委員…… 人件費が減った理由は、合理化の面と単純に外部委託した面があると思うが、外部に委託した分がもともと自分たちでやっていた時よりも少なくなっているのかどうかの説明をお願いしたい。
- 山下委員…… 経費削減においては、私たちの業界もコロナ禍の中、大変な思いをいたしました。電気、ガスだけ見ても年間で見ると、1,500 万円ぐらいの経費がアップしている状況。それに加えて、水道料も上がる

となると市民感覚としも、業界としても非常に厳しいなっているのが正直なところでは。

反面、私たちホテル旅館としては、お客様の安心安全を確保しなければいけない面もあります。お客様に迷惑かけないのが最大のミッションになりますので、そのあたりも理解していただきつつ、進めていただければ、ありがたい。

更なる経費削減についてお考えがあれば教えていただきたい。

事務局…… 経費削減については、思いつくことは大体やってきているところなので答えの難しい質問だが、次回までに整理してお示ししたい。

② 料金水準の現状と課題

事務局…… 資料「水道料金の見直し検討」、「水道施設の更新に係る状況を踏まえた計画的な更新及び適正な水道料金の設定等の促進について（令和5年7月6日付け、厚生労働省水道課長通知）」に基づき説明（上下水道総務課 中山専門監、飯尾次長）

以下、質疑応答

前嶋委員…… 一般的に企業だと減価償却費は、キャッシュが残っているので更新するための費用に充てている。

資産維持費と減価償却費がなぜ二重にあるのかが疑問。水道管については、実耐用年数で更新をするのであれば、余った減価償却費については、この資産維持費はいらないのでは。

国の補助金をもらうために必要であれば、費目を変えるなど工夫できる部分はあるのではないかと。減価償却費の実態をもう1回精査していただくとありがたい。数字は次回で。

事務局…… はっきりとした答えは次回にさせていただきたいのですが、国の通知の6ページをご覧くださいと思います。別紙1、資産維持費についてです。

①「決算上の資産維持費」とありまして、資産維持費は水道料金として徴収した年度においては、損益計算上、当年度純利益に含まれ貸借対照表上、利益剰余金として内部留保されることになる。

②「資産維持費の認識に関する状況」とありまして、現状、損益計算書の当年度純利益は資産維持費として必要であるという説明が不十分なため、住民等の理解が得られず不必要に高額な水道料金設定となっているという誤解が生じている場合があると考えられる。と書かれています。水道事業においては純利益がある程度確保されているのが本来あるべき姿という認識でございます。

減価償却との関係性というところの直接のお答えになってないのでまた改めてご説明させていただきます。

前嶋委員…… 赤字になると減価償却費とは、別の問題。国が資産維持費を含めた形を示しているが、実際には含めなくても他で工夫していけば、

減価償却の中で資産維持はできると思うので調べていただきたい。

③ 料金体系の現状と課題

事務局…… 資料「水道料金の見直し検討」に基づき説明
(上下水道総務課 中山専門監)

以下、質疑応答

田中委員…… 逡増型料金体系についてももう少し具体的に説明してください。

事務局…… 料金表で説明させていただきたいと思います。

21 ページの右下の従量料金表をお願いします。

10 m³まで 44 円ですが、10 m³から 20 m³が 105 円 60 銭、20 m³から 30 m³が 139 円 70 銭になる。段階的に単価が高くなるのが逡増型料金体系。

前嶋委員…… 従量料金の逡増度を緩やかにしようという説明だったが、環境の問題を考えると利用者が節約したくなるような料金体系の方がいいと思う。従量料金はそのまま維持するか、逆にもっと高くして基本料金は、低く抑えて、水を大切にすることが市民の理解を得られるような気がするので、方向転換していただけるといいと思う。

大口利用者の地下水転換については、何らかの方法で規制をかけるとか検討すればどうか。企業の経費節減は企業努力なので致し方ない。今後は人口も減るし使用者の節水意識が進めば水の使用量は減る。設備更新はダウンサイジングすることで設備費を少なくしていけばいいのではないかと。環境のために水を使うのを減らしそれに見合う固定費設備のあり方を考えてほしい。

2、3 年先のことを考えたら一時的に値上げは必要かもしれないが、必要に応じて値下げすればいい。

長期的な計画としては、全体的に使用量が減るのを踏まえて、長期的に費用、固定費を抑えて、収支を改善する方が、市民も受け入れられやすいし、いいのではないかと。基本料金を上げるというのは、私としては大反対。

野中委員…… 説明を聞いていると、需要が減るから困るような言い方をされたのですが、私たち水を使用するものとしては、できるだけ節水をして、余分な水を使わないように考えているが、需要が減るのは悪いことでしょうか。

また、企業が努力して、地下水を利用したってそれはいいのではないかと。需要が減ったら、県から水を買わなくてもいいし、先々のことを考えていってもいいのではないかなと思います。節水している市民に説明できない。

事務局…… 参考にさせていただきます。

山下委員…… 希望としては、激変緩和で対応していただきたい。電気、ガス、水道と考えたときに、ライフラインとして一番節約できにくいのは、

- 水道なので激変緩和で進めていただきたい。また、節水機能やそういう機械の設置に対しての補助金も検討に加えていただきたい。
- 田中委員…… さっきの話に戻るが、需要が減るのが悪いのではなくて需要が減るから今の料金体系では難しいということではないか。
- 事務局…… そのとおりです。
- 村松委員…… 21ページの現在の従量料金の区分ごとの割合というか、10 m³までの方がどれぐらいいて500 m³超の方がどれぐらいか割合は分かるか。
- 事務局…… 水量ベースで申し上げますと、10 m³までが44%。20 m³までが26%になる。これだけで約7割。逆に一番大きい501 m³超になると4%。その下が5%といったところ。
- 参考に従量料金ベースで言いますと、一番下の10 m³までの部分が非常に少なくなりまして19%。次の区分が28%。逆に一番大きい501 m³超が9%。
- 村松委員…… この辺も踏まえて、どうバランス取っていくかっていう話ってことですかね。遠州水道の受水費の関係ですけども、遠州水道以外の天竜川表流水、伏流水、地下水これを合わせると50%以上になるが、この三つについても、遠州水道と同じ料金体系ということか。
- 事務局…… 天竜川表流水、伏流水、地下水の56%については、自前で調達している自己水源という意味。
- 村松委員…… 遠州水道の料金構成について記載されているが、県も経費削減とか、固定費を下げるような努力をするべきと思うが、それを求めたり交渉をする機会はあるのか。
- 事務局…… まさに今、次期料金の協議をしている最中。しっかり経費削減をしているか市町で検証しているところです。
- 村松委員…… 県と市なのでシビアな議論ができていいのか。実情を伺えば。
- 事務局…… 今、受水費のお話がありましたので、補足します。お手元の資料30ページの4番の料金改定協議について、1ポツ目、5市町と企業局で実施という記載がありますが、具体的にはこの5市町の水道事業に関連する関係課長で研究会を設けて交渉を進めています。年度内には決着をしたいと思いますとおりますが、県に対して主張することはしっかりと主張していきます。
- 村松委員…… 35ページに低所得者層への配慮という記載がありますが、これは非常に重要なことだと思っていますが、検討いただきたいのが、災害時の水道料金の減免です。
- いざ災害になると生活が大変になることもあるし、床上浸水などで水道をたくさん使う場合もあります。そういった場合に活用できる減免制度について念頭に置いていただきたい。
- 昨年の台風15号の時に、天竜の被災者相談対応に行ったのですが、床上浸水の対応で大量の水で泥とかを流すため、水道料金が上がったのではないかという話があり、上下水道部に相談したのですが、

減免されなかった。防災対策は非常に重要だと思うので、料金は上げるけど、何かあったときには、被災者を支える姿勢を見せる視点を持っていただければと思います。

事務局……

参考にさせていただきます。

土居委員……

35 ページですが、先ほど基本料金をむしろ抑えて、従量料金の方で消費者が節約するような考え方のご提案もありました。それはそれで、一理あるなっていうふうに伺ったのですが、私の基本的な考え方は、やはり設備がこれからますます老朽化していく中で、耐震化や設備の維持のための固定費は、やはり基本料金できちっと手当をしていくという方向性がこれからの水道の将来の持続的な水道体系を維持する上では、やはり欠かせないと思います。

従量料金は、その分少しこの②のように下がっていくような形になるかと思っています。

ただし、基本料金は水道の口径によって値段が変わりますが実際に水道を使っている量によって、基本料金の体系が果たして適切かどうかといった視点からも見直していただければと思います。

また、注意書きで低所得者への配慮が必要と書いてあります。

基本料金が上がりますので、それはそれとして従量制で、少なく使っている人にとっては負担が増えていくわけですが、少なく使っている人、たくさん使っている人、そこの基本料金の体系そのものの中身も、実際の使用量に応じた適正なものにしていなければならぬというのが私の意見です。

事務局……

委員の皆様から、中には対立するようなご意見もいただいておりますので、これをどう反映させていくかが非常に難しくなってくるところではございますけども、今回は 2022 年度の決算も出ますので、そこを踏まえた財政シミュレーションなどもして、その上で、料金水準の話にも入っていきたいと思います。

次回の資料については、事前に送付する。

今回は 10/3（火）9：30、場所は第 1 会議室

閉会